



2022年9月29日（木曜）～10月1日（土曜）

クマさん会公認・山岳耐久レース

グレードD「北穂高岳（3106m）チャレンジ」奮戦記②

～Report by 石井 (Photo by 中島さん・吉松さん・石井)

今回は、クマさん会・初の山岳耐久レースとなった「北穂チャレンジ」、二日目のリポートである。

＜9月30日・横尾山荘からレースのスタート地点・涸沢へ＞



横尾に朝が来た。同室の涸沢紅葉散策組は早々に出発して行った



○朝食は 5:30～先着順だが
耐久レース組は、6:00頃から余裕の
朝食開始である
ヒサシブリジョンは、このポーズ
何を考えているのか?
ヨシノホマレさんが、いつも何か芸をして
写るよね・・・と、のたまうが・・・
他意は無い
アマテラスさんからは無視?

○横尾山荘前で記念撮影
本日の天気予報は
「ド・ピーカン」
アマテラスが、ホマレとジャンを
灼熱にさらす作戦に出たのか?
体力とスタミナ勝負の一日になりそうだ

○6:40・10分遅れで出発



横尾大橋ではアマテラスに早くも光背が・・・

○いきなりの本谷橋で失礼します（繁忙期の特設橋を渡る）・これからが長い道程なので、途中は省略した



涸沢に向かう途中に、ゴゼンタチバナの「赤い実」が



屏風沢やSガレを過ぎて登って行くと穂高連峰と涸沢カールが遠望できた。紅葉は時期尚早の印象だ



更に進むと、ナナカマドの群落・「実は赤い」



涸沢の分岐に出たのでヒュッテ方向へ向かう

9:30頃・ヒュッテの入り口付近で合流。10分遅れて出発したが、計画より20分ほど早い到着だ



「涸沢カール」 & 「ド・ピーカン」



どや顔のアマテラスお嬢・大明神様・北穂を眺めてご満悦



エ～イ・～こうなりやあ～ランチじゃ・らんちジャ～・・・エネルギー補給のカレーじゃ～と、「吉松さん」



つられて「ジャン」も、おでんじゃ・お田ジャン・よい・ヨイ・ヨイ・よい・・と、当然、アルコールレス



見上げると、北穂南稜ルートは急登の長そうな登山道で、奥穂ルートよりも、かなりきつそうな印象を受けた

この時、アマテラスさんは何を考えていたのか

・・・

今度会った時に聞いてみたい・・・

と、思っている



さて、「耐久レース?」のスタートだ。二人は記念撮影。ヒサシブリジャンは、エ~イままよ、と開き直った初日のリポート中、自分で書いた下馬評でも、「リタイアありか」・・・だし、メットも斜めってるし・・・「なんくるないさ~」と、単純に言えそうにもない山容だし・・・

○本日のレース区間・<涸沢～北穂高岳・北穂高小屋>

○10:50
涸沢を出立



登山道は涸沢小屋の右手から北穂高沢沿いに登る。最初は整備されたステップ状の石畳状の直登だった



○11:15頃・次に現れたのは「階段状のギャップがきつい道」で、ジグザグになった



ホマレさんが
後方で何か芸を
していた
余裕だ
吉松さんも
やるではないか



奥穂への登山道、「ザイテングラート」が見える



徐々に高度を稼いでいくと、「ゴロタ石」の道になったが、浮き石が多くバランスをとるのに苦労した

○11:50頃

難儀しながら暫く行くと
目の前に突然・「クロユリスラブ」なるものが現れた
ルート解説には無かったような・・・



4~5m程度の高さだったんだろうか?
手掛けりはありそうだが、足掛けり用?の
ボルトが2本打たれただけの「壁」であった

クロユリスラブをやり過ごすと、今度は「大岩ゴロゴロ帯」が現れて、なかなかの消耗戦になって来た



ホマレさんと
アマテラスさんが
歩いている場所を
見れば、岩の大きさが
判り易い



更に、下から石井を撮った写真を見ると、ここが結構な難路いうことが見て取れるだろう
こうしたフォローショットは、いつもありがたい。リポート作成には欠かせない写真だ

○12:18頃・「南稜鎖場」に到着した。ここで北穂高沢から南稜へ左折するようにして取り付いた



クサリや梯子、岩稜の苦手な人にはつらい所だ

見た目よりも長くて斜度もあり、更に向かって左側は切れ落ちているので、心理面での圧迫感もある

到着した時は、関西方面からのツアー客（シニアの男女 GP）の1人が、自力で降りられず

ガイドからザイルで繋がれた状態で下降していた

「登れたのに降りられない」。下りは高度感が出て恐怖感が増すのだろう

この待機で10分近くをロスしたが、計画に対してもオンタイムだ

○12:35頃



<上部の鎖場終点から写す>

鎖場は二段になっていて
二段目の上部から見ると斜度と高度感が
よく分かると思う
この先には、梯子が待っていた



南稜鎖場を超えて
稜線はまだまだ上である
眺望が良くて
景色を楽しめなくなつて來た
この先はどうなつて來るのだろう
・・・

と、思つてゐると、これだもんね！！・尾根道は切れ落ちたところがあり気が抜けない



○13:20頃・涸沢スタートから2時間30分・横尾から6時間40分経過



高度計は確認したが、標高の記憶は無い

あと1時間・・・もう～！！・という雰囲気



○この辺りから、ホマレさん、こんな山、「騙された～」の連発銃・珍しく「結構つらくなつた様子」だ





○14:23・その後も「騙された」の連呼を聞きながら、北穂南峰付近の奥穂方面との分岐に到着したが

まだまだ、これですもんね！！（奥穂方面は難易度高し）

○北穂山頂は近い・もう一息だ！！

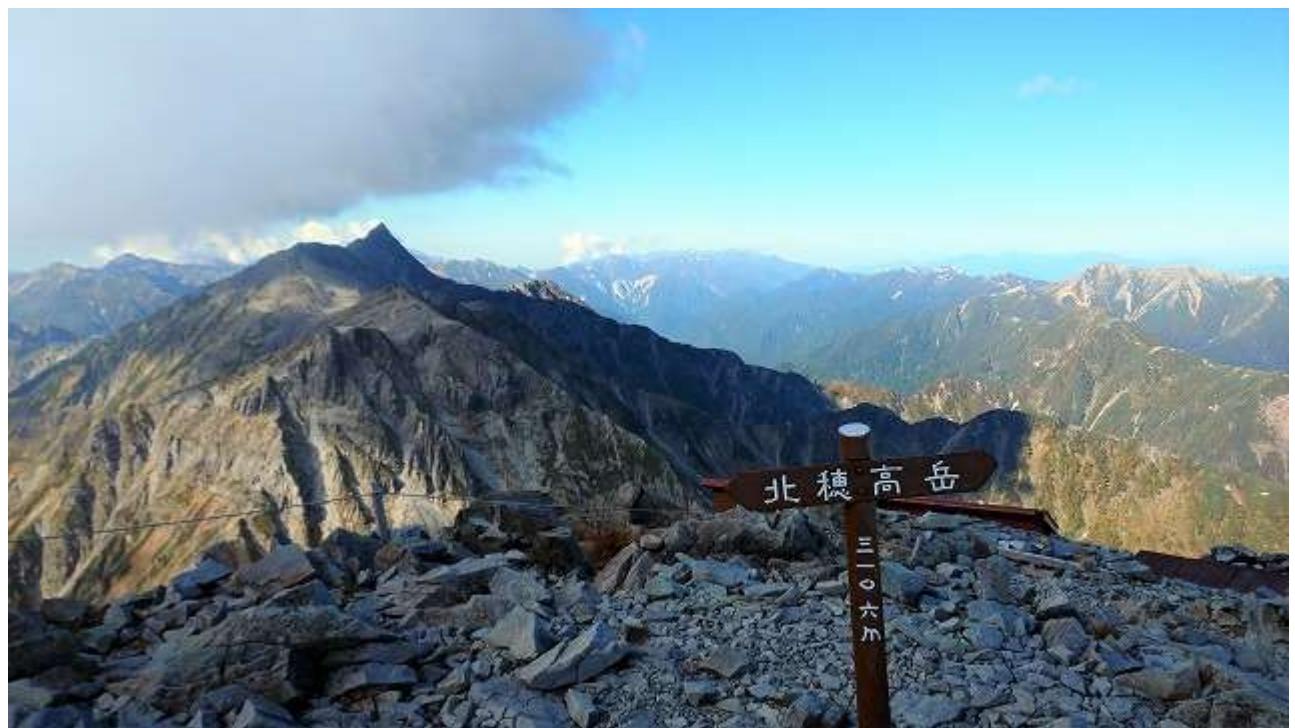


○「松濤岩」の下部と思われる場所を巻いて行く。右側は切れ落ちていた。（このショットもgood！）
ホマレさんの「騙された」の連発銃に呼応して、「もうこんなの嫌だ！」と気晴らしで叫んでみた
すると、アマテラスさんが「そんなこと言うの初めてですね」と、こだまの様に返って来たが
実は、ジャンもスタミナ切れに陥っていた。この辺りでは、もう結構「ヘロヘロ」だったのだ

○14:30頃・やっと振り返って写真が撮れた。到着まであと僅か、右奥は北穂高岳南峰か？厳しい山容だ



14:34・北穂高岳・到着



○スタート地点の涸沢から、標高差約800m・3時間44分、横尾からは、標高差約1500m・7時間54分
「騙された」を連発したり、「ヘロヘロ」だったわりには、設定より46分程早かった・・・
お陰で「槍さん」が、雲に隠れる前に間に合った

北穂高岳（北峰・3106m）登頂・記念撮影



「ヘロヘロのヒサシブリジャン」がセルフタイマーに間に合わずのショット（槍なおし）



あっち向いて「ホイ」ではありません

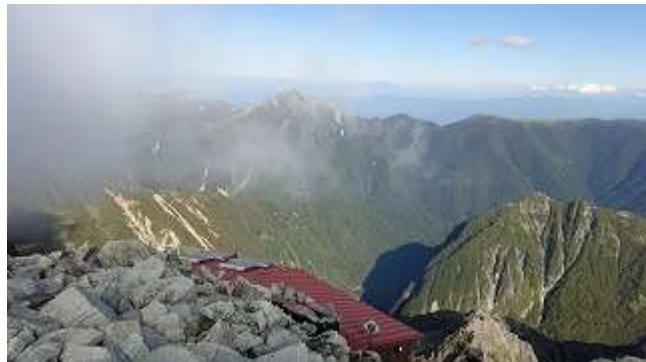


こじんまりした「北穂高小屋」

ここは山頂から 30 秒、すぐそこに屋根が見えておりました

富士山を除けば一番高所の山小屋らしい（横尾で同部屋のお姉さん？から聞きました）

その方は日本で一番と言われましたが、待てよ、富士山頂で泊まった小屋が一番高いだろうと後で気付く始末
教えてあげられれば良かったのになあ～



チェックインして食堂で乾杯です。今日は全員・350・・・「3 人とも良く頑張りました」の一日でした



「結構しんどい山だね」・「えっ、この山グレード D なの？」・「ハイ」・「隠してた？」・「そんな・・・」

「明日は用心して降りよう」・「しっかり食べてスタミナ付けよう」・「明るくなってから降りよう」 etc

運良く 3 人部屋を貰えて、一杯後に暫しグースカ・・・でした。でも強者は寝姿を撮っておられました



○17:00・晩御飯。狭いので3~4交代。この日は生姜焼き定食?だったかな



北穂高小屋のディナーは、高所なのにご飯もしっとりで、それなりにちゃんとした内容で「感心しました」

○18:00頃・夕暮れ時の一瞬の光芒



前穂から吊り尾根～奥穂の連なり



滝谷の鋭峰

本日は、これでおしまいです

おっと、忘れるところでした

ここまでレース結果は「同着」でした・・・???

山頂で遊んで一緒に小屋に行ったので、「涸沢～北穂高小屋まで」のレースは同タイム（笑い）

明日の後半戦もおたのしみに！！！